

事業所における自己評価結果（公表）

公表：令和 4年 5月 6日

事業所名 オールケア児童デイみどり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5	2	メンバーによりマットフロアを拡大・縮小している	バギーと休憩・訓練スペースの過ごし方を再検討する
	2	職員の配置数は適切である	4	3	他部署から協力を依頼しあっている	1日の流れや動き方の把握に努め、優先順位をつけて仕事をする
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	1	施設内は平面である	動線の確保として整理整頓の仕組みをつくる
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	6	1	清潔と1日の流れに合わせた仕組みとなっている	危険予測と安全の中での自由な動きの場を確保していく
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	2	部署の会議を2回実施し共有時間を確保	現場スタッフと管理者の考えをよりシームレスにしPDCAを加速させる
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	7			
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	3		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	4	他部署の管理者と素直な意見交換は行っている	外部顧問的等に評価を行えるようにすると更に色んな業務改善につなげられる
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1	本部の研修に参加・リモートでも参加している	現場優先により研修に参加できていないスタッフも多い、1人当たりの稼働率を高める
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7		モニタリングや日々の関わりを背景に計画している	可能性や療育面など多角的に本児を捉えていく
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	1	アセスメントシートを用いる	イマに合った手法を求め、改善を加えていく
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7			

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7		個別取組一覧を用いている	気づきや発見を大切に活動を取り入れる
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	7		イベント担当を中心に発信・企画を行っている	仕事経験を積み立案の幅を広げる
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	7		スタッフ(企画側)が楽しいことを実践する	個別的な関わり利用児理解を深めることで想像力を養う
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	7		個別活動と始めの会などメリハリをつけている	社会資源としての集団生活のあり方をより意識する
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		朝礼にて業務連絡とスケジュール確認を行う時間を確保	より早いタイミングで手を打つため書類での管理を効率化する
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		終礼の実施	終礼内容の質を高めるため、日々・瞬間の気づき等を見逃さずに共有する
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		リアルタイムでの記録を心掛けている	更なる効率化を求める
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	7		相談支援員との連携をとっている	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	1	管理者・看護師の参画	
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	5	2		
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	7			
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	7	1		
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	1		コロナ禍に置いて直接訪問等が叶わなかったため、代替連絡共有を図る
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	2	移行に向けての配慮を保護者と調整する	移行先との情報交換を直接行ったり、環境の変化を最小限にする努力を続ける
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	4		児童部会へは管理者のみ参加している。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	3	4		地域との交流は課題、更なるオールケアの発信と出来ることの追求。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
との連携	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	4	3		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		日々の申し送り	
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	4		手術後のサポートを行うことはあった。家族様の困りごとに対するヒアリングを強化する。
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	5		看護師など専門知識をもった者からの目線を取り入れ伝えている	他社会資源とも手法や考え方を共有したい
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		5		コロナにより参観・懇談が出来ていないが、リモートの活用も視野に動き出したい
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	5			
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	1	4		イベントの告知のみとなっている。スタッフ紹介などの発信と共有はしていきたい
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	5		配慮している	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	5		配慮している	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	3	秋祭りの実施	コロナにより秋祭りが実施できていない
	非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	5		報告書の作成を行っている
42		非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4	1	継続	地域住民への協力なども行っていきたい
43		事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	5		看護師を中心とした管理を行っている	
44		食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5		指示書の管理を行い更新している	
45		ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	5		委員を設け共有している	

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
心	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		全体研修を行っている	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	5		計画と共に検討・了解を得ている	

○この「事業所における自己評価結果（公表）」は事業所全体で行った自己評価です。

保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）

事業所名 オールケア児童デイみどり

保護者等数（児童数）回収数 1 割合50%

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制 整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されている	1					メンバーによりマットフロアを拡大・縮小している
	2	職員の配置数や専門性は適切である	1					他部署から協力を依頼しあい、情報共有を行っている
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	1					施設内は平面である。動線の確保に努める
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	1					危険予測を行い安全の中で自由に過ごせる環境づくりを行う
適切な 支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されている	1					部署の会議を2回実施し共有時間を確保
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援（本人支援及び移行支援）」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	1					本児様の環境のストレングスに目を向けながら必要な支援内容を考え実を続ける
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	1					本児様の特徴等を日々の関わりから認識しストレングスに注視した支援内容を考え実を続ける
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されている	1					個別的な関わり利用児理解を深めることで想像力を養う
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある				1		普段からの関わりを増やしたい
適切な 支援の	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされた	1					
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされた	1					本児様のストレングスに目を向けながら必要な支援内容を考え実を続ける
	12	保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）が行われている				1		コロナ禍により直接の支援は手薄になっているため代替案を検討
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況、課題について共通理解ができているか	1					ふさわしい者が相談の対応を行い職員にも報連相のもと周知共有を図る
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われている	1					看護師など専門知識をもった者からの目線を取り入れ伝えている
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されている						コロナ禍により参観・懇談が出来ていないがリモートの活用も検討したい

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
提 供	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されている	1					13, 14を合わせ対応を行っている
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされている	1					配慮を継続していく
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されている	1					
	19	個人情報の取扱いに十分注意されている	1					注意している
非 常 時 等 の 対 応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されている。また、発生を想定した訓練が実施されている	1					定期的に見直し・検討を行う
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われている	1					地域住民への協力を行っていきたい
満 足 度	22	子どもは通所を楽しみにしている	1				帰宅の時や、朝のおはよう！といっ てもらおうとテン ションMAXで喜んで ます	引き続き申し送りや挨拶を大切に していく。
	23	事業所の支援に満足している	1					

○この「保護者等からの事業所評価の集計結果（公表）」は、保護者等の皆様に「保護者等向け児童発達支援評価表」により事業所の評価を行っていただき、その結果を集計したものです。

放課後等デイサービス事業所における自己評価結果（公

公表：令和 4年 5月 6日

事業所名 オールケア児童デイみどり

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	5		メンバーによりマットフロアを拡大・縮小している	バギーと休憩・訓練スペースの過ごし方を再検討する
	2	職員の配置数は適切である	2	1	他部署から協力を依頼しあっている	1日の流れや動き方の把握に努め、優先順位をつけて仕事をする
	3	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	5	1		動線の確保として整理整頓の仕組みをつくる
業務 改善	4	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画している	5	1	部署の会議を2回実施し共有時間を確保	現場スタッフと管理者の考えをよりシームレスにしPDCAを加速させる
	5	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6			
	6	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	3	1		自己評価票の存在・活かし方を周知・認知する
	7	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	1	他部署の管理者と素直な意見交換は行っている	外部顧問的等に評価を行えるようにすると更に色々な業務改善につなげれる
	8	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	6	1	本部の研修に参加・リモートでも参加している	現場優先により研修に参加できていないスタッフも多い、1人当たりの稼働率を高める
適切な 支援の 提供	9	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	7		日々の申し送りを会話の中で共有することが多い	サービス計画を現場のスタッフにも携わっていきけるよう広く理解をしていく
	10	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している	4	1	アセスメントシートを用いる	イマに合った手法を求め、改善を加えていく
	11	活動プログラムの立案をチームで行っている	6		イベント担当を中心に発信・企画を行っている	仕事経験を積み立案の幅を広げる
	12	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	5		スタッフ(企画側)が楽しいことを実践する	個別的な関わり利用児理解を深めることで想像力を養う
	13	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	5		個々の長所を活かし業務を遂行している	負担のしわ寄せや精神的負担を解消するため1人あたりの把握力を高める、報連相の強化
	14	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	6		個別活動と始めの会などメリハリをつけている	社会資源としての集団生活のあり方をより意識する
	15	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	7		朝礼にて業務連絡とスケジュール確認を行う時間を確保	より早いタイミングで手を打つため諸書類での管理を効率化する
	16	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	7		終礼の実施	終礼内容の質を高めるため、日々・瞬間の気づき等を見逃さずに共有する

	17	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	7		リアルタイムでの記録を心掛けている	更なる効率化を求める
	18	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	7		相談支援員との連携をとっている	
	19	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせ合わせて支援を行っている	3			
関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	4		管理者・看護師の参画	
	21	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っている	7		関係機関を意識している	即時確認・対応を続ける
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている	5			
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている	4			疎遠になってしまっていることも多い。地域交流は課題。
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している	6		移行に向けての配慮を保護者と調整する	移行先との情報交換を直接行ったり、環境の変化を最小限にする努力を続ける
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	2		児童発達支援センターと接点が少ないので情報を共有できていない。アプローチを行う
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	1	5	秋祭り、一般参加のイベントを設ける	普段からの関わりを増やしたい
	27	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加している	2	3	自立支援協議会への参加	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	7		日々の申し送り	
保護者への説明責任等	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている	1	2		コロナ禍により直接の支援は手薄になっている
	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	7			
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	6		ふさわしい者が相談の対応を行っている	報連相を常に行っている
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している		6	秋祭りや参観日の実施を考えていた	コロナ禍により一同に会することがほとんどなかった
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	5		苦情報告を周知している	
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	2	行事連絡は行えている	事前連絡は行うようにはしているが、定期的・計画的ではない
	35	個人情報に十分注意している	6		配慮している	

	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	4		配慮している	
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	1	秋祭りの実施	
非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	5	1	報告書の作成を行っている	新人スタッフにもわかりやすいように共有する
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	4		継続	地域住民への協力なども行っていきたい
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	5		全体研修を行っている	事例検討などワークを通じて考える力・目を養う
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	4		サービス計画と共に振り返るようにしている	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	5		指示書の管理を看護師を中心に行っている	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	6		委員を設け共有している	

保護者等からの放課後等デイサービス事業所評価の集計結果（公表）

公表：令和 4年 5月 6日

事業所名 オールケア児童デイみどり 保護者等数（児童数）13 回収数7 割合53%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	6	1				バギーと休憩・訓練スペースを調整し、過ごし方を変えている
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	7					他部署の職員とも情報共有を図っている
	3	事業所の設備等は、スロープや手すりの設置などバリアフリー化の配慮が適切になされているか	7					段差等なく平面となっている
適切な 支援の 提供	4	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、 <u>放課後等デイサービス計画*1</u> が作成されているか	7					モニタリングのほかに看護師・ヘルパー目線での情報も集め検討している
	5	<u>活動プログラム*2</u> が固定化しないよう工夫されているか	7					可動域やストレングスに注視し活動の幅を広げられるよう努めている
	6	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会があるか		5	2			地域交流の場や接点をもてるよう検討したい
保護者 への 説明等	7	支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	7					日々の申し送りをさせていただいている
	8	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	7					試行錯誤や継続についても相談を行っていききたい
	9	保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	6	1				実際のケアを互いに直接見る機会を設けたい
	10	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	1	4	2			コロナ禍においてリモートの会を検討したい
	11	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知・説明し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	6	1				迅速な対応を心掛ける
	12	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	7					配慮を継続する
	13	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信しているか	5	2				発信・周知を丁寧に行う
14	個人情報に十分注意しているか	7					配慮している	

非常時等の対応	15	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、保護者に周知・説明されているか	7				より細かい配慮とわかりやすい説明を行う
	16	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	7				より実際をイメージした訓練を行っていききたい
満足度	17	子どもは通所を楽しみにしているか	7				明るく楽しい雰囲気づくりに努める
	18	事業所の支援に満足しているか	7				向上心をもって臨み続ける

*1 放課後等デイサービスを利用する個々の子どもについて、その有する能力、置かれている環境や日常生活全般の状況に関するアセスメントを通じて、総合的な支援目標及び達成時期、生活全般の質を向上させるための課題、支援の具体的内容、支援を提供する上での留意事項などを記載する計画のこと。放課後等デイサービス事業所の児童発達支援管理責任者が作成する。

*2 事業所の日々の支援の中で、一定の目的を持って行われる個々の活動のこと。子どもの障がい特性や課題、平日／休日／長期休暇の別等に応じて柔軟に組み合わせて実施されることが想定されている。